暮らしを支える

…福祉

シルバー人材センターの支援

塚越洋一 議員

問 シルバー人材センターへの支援を強化し、高齢者の就労機会の拡大を図るべきでは。

答 広報紙や市のホームページなどによる情報提供を行い、就業の場の拡大などの支援に努めていく。

西 和彦 議員

問 高齢者の就労支援と生きがいづくりの場所として、シルバー人材センターは必要な組織と考えるが、今後の支援策については。

答 引き続き財政支援や公的業務の安定的発注を行う。また、就業場所の開拓については、どのような支援が可能か検討する。

高齢者や低所得者の住宅確保

伊藤初美 議員

問 特定目的借り上げ公共住宅の借り上げ期限が平成29年度だが、その後の契約の見通しは。

答 期限終了時に再契約できるように、平成25年9月にUR都市機構と確約を取り交わした。

問 低所得の若者や子育て世帯に、家賃補助制度の新設ができないか。

答 考えていない。

成年後見制度のニーズなどは

鈴木啓太郎 議員

問 高齢化社会を迎えて、成年後見制度のニーズ、及び市民後見人育成の必要数をどのようにとらえているか。

答 厚労省のモデルで推計すると、認知症高齢者、障がい者あわせて470人が後見ニーズとなり、そのうち市民後見人を必要とするのは約1000人と見込んでいる。

地域包括ケアシステムの構築に向けて

小林憲人 議員

問 地域ケア会議とともに、高齢者の虐待防止を目的とした権利擁護ネットワーク会議が必要。対応は。

答 地域ケア会議や虐待防止ネットワーク、成年後見制度の専門家などを交えた会合を持つことは重要。体制整備に向け検討していく。

第6期介護保険計画作成にあたって

足立志津子 議員

問 平成27年度以降に介護保険給付から外れる要支援者の介護サービスについて、質と量を落とさない対策を。

答 第6期介護保険計画の中で事業を決め、要支援者に支障のないようにしたい。

健康寿命の延伸の施策は

山田敏夫 議員

問 健康寿命の延伸のための施策については。

答 地域と密着した健康づくりに取り組むことが重要であり、市民や関係団体などの協力を得て健康増進事業をさらに推進していきたい。

高齢者対策

大築 守 議員

問 孤独死等の防止に、老人クラブの加入促進をしては。

答 加入者の減少は趣味の多様化や就労などが考えられるが、昨年9月から、市では高齢者見守りネットワーク事業をスタートし、全国老人クラブ連合会では、在宅福祉を支える友愛活動を推進している。孤独死や孤立化を防ぐ意味から、これらの活動を推進し会員の増加にも努める。

手話条例制定と具体的施策は

足立志津子 議員

問 聴覚障がい者のコミュニケーションバリアを解消するため、手話言語条例の制定、手話講習会の拡充、専任手話通訳士の複数化など環境整備を。

答 条例化は、地域自立支援協議会などの意見を聞き、研究したい。講習会はよりよい実施方法を検討する。また、他市に先駆けた正規職員による専任手話通訳士については、当面現体制でいく。

生活困窮者自立支援法への準備

鈴木啓太郎 議員

問 生活困窮者自立支援法の施行を平成27年4月に控えて、市はどのように準備し対応していくのか。

答 同法は、相談支援、住宅確保支援、就労・学習支援などメニューが他分野にわたるので、関係部署での調整とともに全庁的な検討が必要と考える。

人が行き交うまちへ

…交通

鶴ケ岡周辺の交通安全対策

大築 守 議員

問 しまむら大井店、くら寿司埼玉大井店、東上セレモニー交差点への歩行者用の信号機の設置の進捗は。

答 1月31日付けで東入間警察署へ要望済みである。

北野、大原、上福岡の交通安全対策

岸川彌生 議員

問 北野、大原、上福岡一丁目地域でゾーン30が実施されたが、なかなか効果が表れていない。特に川越市境の道路については、徹底した規制を実施するため、標識の増設や取締りの強化が必要ではないか。

答 東入間警察署に30キロ速度規制標識の増設を依頼するとともに、白バイの駐留警戒を行うことで協議した。

自転車事故対策

山田敏夫 議員

問 自転車事故の対策については。

答 新たな取り組みとして、交通事故現場を再現し危険行為を未然に防ぐ「スケアードストレイト教育技法」を、市内の全中学校を対象に実施したい。また、歩行者と自転車、自動車が分離して走行するための幹線道路網の交通体系や、道路構造の現状を調査する総合交通体系調査を実施し、その調査結果を踏まえて整備計画を策定していきたい。

スケアードストレイト教育技法の講習

西 和彦 議員

問 子どもたちが自転車事故の被害者や加害者にならないよう、自転車交通安全教育の取り組みと今後の対応については。

答 小中学校では、安全教育を教育課程に位置づけ、指導計画に従った安全指導を計画的・継続的に行っている。今後も内容を見直し、保護者や地域と連携した自転車事故防止のための取り組みを働きかけていく。

さぎの森小学校前の交差点改良を

谷 新一 議員

問 （仮称）ららぽーと富士見の開業により、通過車両の増加が予想されるさぎの森小学校前の交差点改良の考えは。

答 今後、交通体系調査の実施や関係機関との協議を検討する。

花ノ木中学校前交差点の渋滞解消は

福村光泰 議員

問 花ノ木中学校前の交差点改良と、時差式信号機で右折車による渋滞が解消できるのではと提言したが、その後の進捗状況は。

答 信号機の設置及び改良の要望については、交通量の調査が必要になり、延べ24人の職員で交通量調査を行い、県警に要望書を提出した。今後も引き続き解消に努力する。

上沢勝瀬通り線の整備

西 和彦 議員

問 平成26年度の事業の取り組みは。

答 北側の用地取得の交渉や都市計画道路の県道ふじみ野朝霞線までの区間の地権者への事業概要の説明と意向確認を行い、県等と道路整備に向けての合意形成を進める。

上福岡浄水場周辺の歩道整備

足立志津子 議員

問 上ノ原信号交差点から上福岡浄水場までの歩道整備の見通しは。

答 地権者の意向を踏まえ、市の財政状況を考慮しながら検討していきたい。

江川緑道改修促進

足立志津子 議員

問 三か年実施計画に江川緑道維持管理計画を盛り込む考えは。また、市道と交差する危険箇所の交通安全対策を。

答 整備手法について研究し、盛り込みたい。危険部分は対応したい。

地域公共交通の次のステップは

谷 新一 議員

問 充実した地域公共交通の政策実現のため、次のステップとして何をすべきか。

答 必要に応じ、市民からの意見聴取の機会、また、関係者間や専門家などを交えた協議の場を設定していく。